

地域に溶け込む商店街

(みのお本通り商店街振興組合)

訪問日：平成28年2月16日

担当AD：堀 登志子

日常の買い物の場として。



みのお本通り商店街は、阪急箕面駅から歩いて数分のところにある50弱の店舗が軒を連ねる比較的小さな規模の商店街です。箕面といえば、箕面温泉、明治の森箕面国定公園内にある箕面大滝（日本の滝百選1つ）や箕面山瀧安寺などの観光スポットがあり、電車を降りるとそれぞれの観光地に向かう人が多く見られます。特に紅葉の時期には多くの観光客が訪れるほか、最近では外国人観光客も

増えてきているようです。

しかし、商店街はそれらの観光スポットとは反対の方向に位置しており、観光客が大勢訪れるような立地にはなっていません。必然的に商店街の主な利用者は近隣の住民となり、地域住民の暮らしを支える商店街として発展してきました。

規模も小さく、観光客も少ない商店街と聞くと厳しい環境であることが想像されますが、みのお本通り商店街には空き店舗がほとんどありません。訪問した時点でも空き店舗は2店のみでした。商店街の組合員には不動産のお店も立地していることから、店舗誘致に積極的に動いてもらえているという要因もあるようですが、以前から空きが出てもすぐに埋まるという状況であり、店舗の新陳代謝が順調に進められている商店街でもあります。

隣接するテナントビルの精肉店をあわせると、鮮魚・野菜の生鮮三品のほか、パン・豆腐・菓子・総菜などの食品、ドラッグストアと日常生活に必要なものが、みのお本通り商店街には揃っており、日常生活に必要な買い物が一通りできます。また、飲食店も充実しており、商店街の規模は小さいものの、買い物から食事までを幅広くカバーする店舗構成となっています。

歩いて数分の場所にイカリやコーヨーという大型スーパーが立地していますが、特に影響を受けることもなく、みのお本通り商店街は、子育て世代から高齢者までの幅広い層の利用者でにぎわっています。

みのお本通り商店街は、地域住民に日常の買い物の場として、商店街を利用してもらうために、身近なことからコツコツとできることを積み上げてきました。

気持ちの良い買い物環境を提供する。

商店街の利用者の満足度を上げるために、何をすべきかを考えた結果、みのお本通り商店街はアーケードを設置しませんでした。振興組合は、平成7年に組織し、アーケードを建設すべく議論を重ねましたが、「せっかく景勝箕面山があるのに、アーケードで商店街を覆ってしまい、見えなくするなんてもったいない」という意見が多く、アーケードはない方が良いという結論に達したためです。



また、みのお本通り商店街では、各店主が、毎朝毎晩、自分のお店の前の舗装の清掃をしています。清掃は、地道な活動ではありますが、商店街を清潔に保つだけでなく、商品の魅力を伝えやすい売り場を築くうえで欠かすことができないものです。商店街の店主ひとりひとりが清掃に取り組むことが、気持ちの良い買い物環境の構築につながっています。

このほかに、商店街に多く訪れる高齢者のために休憩できるベンチを設置したり、防犯カメラの設置を進めたりと、安心して買い物ができる環境作りも進めてきました。現在は自転車通行によるトラブルをなくすための対応を検討しているところですが、自転車の通行を制限することは商店街利用者の利便性の低下にもつながることから、各店舗が協力して、自転車は降りて通行してもらうように声かけをするよう努めています。

このような安心・安全な環境の実現に対する取組みと平行して取り組んでいるのが、地域の商店街と協力したPR活動です。

かつては上手く協力関係を築くことができなかった時期もありましたが、店主の世代も変わる中で、横の連携に広がりが出てきました。今の二代目、三代目の店主は、幼少の頃から身近に過ごし、付き合いも長いことから自然と連携して事業に取り組む動きが広がっています。

百円商店街は2010年から始まり、今年で7回目ですが、近隣の商店街で共同開催するのに合わせて参加しています。また、「箕面山七日市」というイベントが約10年前から



地域の商店街やまちづくり会社、商工会議所の連携で実施されており、みのお本通り商店街も参加しています。この箕面山七日市は地域に浸透しており、毎月7の開催日には多くの人出で商店街が賑わいます。また、商店街では夏にこの七日市にあわせて商店街内に会場を特設してビアガーデンを開催することで、商店街を知ってもらうきっかけにしようと努めています。

この他にも、隣接する3つの商店街で商店街のマップを作成したり、合同でセールを開催したりと地域の商店街と連携して様々な事業に取り組んでいます。

規模が小さい商店街ではありますが、周囲と連携しながら事業に取り組むことで、より規模が大きなイベントを協同して開催し、より多くの人を集めることに成功しています。

緩やかにつながる。

商店街の店主が、2代目、3代目と代替わりが進んできたことで、商店街活動にも積極的に関わる若手店主も増えてきました。それまでは、何かイベントなどを実施しようとしてもなかなか人が集まらないというケースも多かったようですが、最近では担当の若手理事をおけるようになってきています。

また、SNSを活用し、理事会のグループで連絡を取り合うことで情報の共有が簡単に行えるようになりました。事前に本人に依頼したうえで、SNSのグループでも担当者を告知することでよりスムーズに運営体制を構築し、事業を動かしていくことができるようになりました。

ビアガーデンイベント終了後には組合員全員に声を掛けて慰労会を実施したり、年に2回組合員全員が参加できる拡大理事会を実施したりすることで、組合員の意見を拾う機会を設けるように努めていますが、決して強制するのではなく、促すようにしています。

商店街の舗装の清掃も、規則で決めたわけではなく、あくまで自主的な取り組みです。

ルールで決めて動くのではなく、あくまで各店主の自主性に重きを置いています。

みのお本通り商店街は、全国的に見て何か目新しい取り組みをしているわけではありません。しかし、各店主が自主性を重んじられる中で、高い意識を保ち、活動しています。

結果として、近隣の商店街や商店街の組合員同士、商店街の店主と利用者など、様々なシーンにおける人と人との緩やかなつながりが生まれています。

買い物に来たお客さんと長い時間、世間話を楽しみながら店員が接客する光景を見て、理事長はにっこりしながら「いつもあんなのばかりなんですよ」と教えてくれました。

地道な活動ではありますが、利用者にとって買い物をしやすい環境を整えることに真摯に向き合うことや地域と連携しながら活動を展開することで、地域に溶け込み、繰り返し利用されるにぎわいある商店街を実現しています。

商店街データ

商店街名：みのお本通り商店街

所在地：大阪府箕面市箕面6丁目1番15号

担当者名：理事長 尾崎 勝之

連絡先：072-722-4500